

IMF・世界銀行年次総会 CSO 連絡会 第1期 第1回全体会
議事録

2012年2月28日(火) 18:30~20:30

場所：新宿区 西早稲田 AVACO ビル 6F (スカイラウンジ)

※出席者については別紙参照

1. 開会
2. 定足数の確認：会員の過半数以上の出席が確認された
3. 議長選出：谷山 博史
4. 議事録署名人の選出：山田 太雲、鶴見 和雄

5. 討議事項

(1) 活動報告と決算見込みについて：

活動報告案(別添1)に沿って JANIC 水澤より説明があった。主な活動は以下の通り。

- ・立ち上げ総会と全体会議、幹事会(計3回)、IMF・世銀財務省との調整会合の開催
- ・入会管理、会計管理、会員 ML 管理、ウェブサイト管理

質問：IMF・世銀財務省との調整会合について詳しく説明してほしい。

- ・CSO ポリシーフォーラム(以下 CSOPF)の日程は10月10日~13日頃の予定。コンセプトノートは現在作成中で近日中に公開される。
- ・2月3日の会合でこちらが質問したこと及び先方からの回答は以下の通り：
 - CSOPFにおける通訳の有無：予算上全てをつけることはできない。
 - メディアアウトリーチについて：スペースや設備はIMF、世銀から提供される。
 - 参加登録について：登録期間は3ヶ月程度。7月末より開始予定。確認作業はワシントン本部で行われる。確認項目は以下の2点。
①組織として機能しているか ②国際開発に関連する活動をしているか。
 - スポンサーについて：世銀 IMF からの招待を受けて出席する団体に対しては費用の半額程度が先方からスポンサーされる。対象は55~60団体程度。
 - CSO プランニング・グループについて：CSOPFの企画の助言を行うCSOのメンバー。メンバーの公募は3月上旬に開始予定。(春季総会後に延びる可能性も有り)構成メンバーは日本、アジア、アフリカ。これにINGOやラテンアメリカを入れた方が良くCSO連絡会幹事の意見を伝えた。
 - 会場について：帝国ホテル、ホテルオークラ、国際フォーラムの3会場。CSOPFがどこに割り当てられるかは未定。
 - 仙台でのセミナーについて：総会の一部として仙台での防災セミナーも開かれる。
 - ユースの招聘について：これまでの総会ではスポンサー対象としてユース枠が設けられた例があ

ったが、東京総会では予算の制約からユースへのスポンサーはなし。

質問：仙台でのセミナーは総会の一部か、また管轄はどこなのか。

回答：総会の一部である。管轄や参加者については財務省から調整中との答えのみ。

(2) 第一期の決算案について：

第一期決算案（別添2）に沿って JANIC 水澤より説明があり、決算見込みが承認された。

報告の概要と会員団体からの質問は以下の通り。

- ・第一期は助成金を受けておらず、収入は会費 16 団体分の 16 万円。会議は立ち上げ総会と本全体会議で 1 回 2 万円として計上。郵送費・交通費・雑費は未確定だが、実費を計上予定。事務局管理費は経費の 20%を計上している。

質問：決裁見込みであり、最終版ではない。最終的な決算承認は 2 期の全体会議で承認をとるとい
とか。

→ 5 月に開催予定の第 2 期第 1 回全体会議で承認を取りたいと考えている。

質問：会議費の 2 万円について。JANIC への会費との関係はどうなのか。なぜ敢えてここで会議費を払
う必要があるのか。

→ 本連絡会は JANIC の会員制度と連動するものではなく、会員外にも開かれたネットワークである。
活動についても独自性を持っており、会計も JANIC とは別会計になっている。

→ 別枠ではなく、JANIC の範囲の中でやるべきなのは。

→ JANIC の会員という枠を超えて活動する場合は JANIC もまた "One of them" である。どこのネット
ワークも人材や財政面で非常に厳しいことを鑑みて、JANIC にやってもらうならば会議費等で多少負
担を分け合い、皆で支えていこうということになった。

本連絡会においては JANIC も会員組織の 1 であり、どの団体も同じということ。

→ 実際に 9 月の総会に行ってみると、総会に積極的に関与している団体は、環境系や半貧困ネットワ
ークなど、日本でいうところの JANIC 会員と性質を異にする組織である。このような団体を取り込むこ
とを考えたとき、JANIC の枠を超えて、JANIC を含む大きなネットワークが必要だろうということ
になった。

(3) — 1. 第 2 期活動計画案について：

第 2 期活動計画案（別添資料 3）に基づいて、JACSES の田辺より説明があった。

報告内容は別添資料を参照。

質問：勉強会は内部的なものを想定しているか。

→ どこまで開いたものにするのかについてはまだ幹事でも話せていない。会員のみでクロードにする
意味もないので、基本的には総会に関心を寄せる NGO ならば参加してもらえればと考えている。

質問：国内の市民社会組織に対してどういう公共性を持った活動をしていくのか。海外のCSOについては支援をするということだが、国内の団体に対してCSO連絡会はどんな意味を持ち、何を提供できるのか。

2点目。IMFは日本の消費税の増税にも肯定的で提言も行っている。IMFには色々な問題があるが、国内の運動体（例えば増税に反対する団体等）に対して、この連絡会はどのように向き合うのか。

→ 基本的には情報共有がメインになる。勉強会、全体会議を通して活動や 이슈の共有をはかり、それぞれの活動を強化していくという仕組みを考えており、CSO連絡会として1つの提言書を出すようなことは想定していない。今後議論の可能性はあるが。

2点目については幹事会でもこれまで特に議論がされてこなかったのが現状。

→ 個別の様々なイシューについて取り組むNGOに対し、連絡会は何かしてくれるのか。

→ 加盟団体の方から、CSO連絡会の枠組みでこれをやりたいということを出せば持ち上げることはできる。またイシュー別に団体が有志連合を組み、そこにCSO連絡会が何らかのかかわりを持つということありうるだろう。

→ どういう公共性を担保するのかは明確にした方がよい。各団体から会費を徴収する以上は参加によるメリットをしっかりと打ち出すべき。

→ これまでの幹事会では日本のメディア向けに、本連絡会として記者会見を開く可能性も話に上がっていた。その際、特定のサブスタンスに関して言いたいことがある人が前に出る可能性はあるだろう。

今回の総会に関してはG8洞爺湖サミット時のように多くの団体が自前のイシューを持っているかというところではない。このような状況下でどこかの団体が活動したいという場合によりどころになる枠組みを作るという話からこの連絡会ができています。

国内の問題に関してはアグレッシブに声掛けできているわけではないが、反貧困ネットワークには声をかけている。

→ 貧困や失業の問題に対する明確な方向性は出し切れていないのは確か。しかし連絡会は世銀との情報を繋いだり、活動の場づくりをするなど、ジャンクションとしての機能を果たせる。このサポート体制をどう作るのかが第2期の課題。

→ 情報共有という以上に“場づくり”をより明確に打ち出すとよい。例えば“〇〇したい人たちが相談できる場所”など、情報共有だけでなく、プロアクティブな部分を打ち出せばより多くの団体が参加してくれるのでは。NGO連絡会ではなく、CSO連絡会と名乗るからには国内の反IMF的な主張をする団体も対象となる。もしこのような団体を含めないとするならばアイデンティティーの見直しが必要。

→ 名称をNGOでなくCSOとするということは海外にとって一貫性の意味で非常に重要。海外のステークホルダーに対する公共性を考えるとやはり“CSO”であるべきと考える。

→ 名前において期待されるものは大きいことは自覚すべき。またできることとできないことを明確にしておくことも重要。

→ 相談できる場づくりや、団体へのサポートについては対外的に出していきたい。規約の活動部分についても書き換えが必要か。

→ IMF世銀総会に関する活動を行う団体へ支援を行う、ということを明記することが必要。

“対話を促す”という部分については、“提言活動を支援する”という表現を付け足した方が積極的なのでは。

- 先回の立ち上げ総会では政策提言はしないことが連絡会の前提だった。これまでの話は、あくまで提言活動を行う”団体”への支援であると理解して良いのか。つまり、この会としてはまとまった提言活動はしないということが良いのか。
- G8 の際の莫大な労力を考えると同じことをこの連絡会でやるのは難しい。本連絡会は提言活動をする団体をサポートする場と捉えて良い。
- 連絡会としてサポートする・しないをどういう基準、手順で決めるのかを決めておいた方が良いでしょう。
- 最終的には幹事会が決めるということになるのでは。相談自体は受け付けた方が良いが。
- 連絡会は各団体の提言活動をサポートする。会員同士で共同の提言書を出すのも大歓迎。ML で賛同団体を募るのも大歓迎。ぜひ ML を有効活用してほしい。

質問：会費について相談したい。会費の存在が入会の障害になっているという国内団体があるのかと思う。G8 の時は活動的にも金銭的にも貢献をしない団体のフリーライドも一部出た。CSO 連絡会については責任を持って関わっていただくという意味で現状のようにになっているが、公共性観点を踏まえ見直す必要はあるか議論したい。

- JANIC の会員ではないが、お金を払ってでもこの枠組みに参加するメリットを感じている。
- 現状（会費 1 万円）のままで良い。

質問：CSO には企業組合等も含まれるのか。CSO の範疇はどうか。

- 規約の第 5 条にある”非営利で自発的な市民団体”が判断のよりどころとなっている。
- IMF のいう CSO には我々の想定する CSO とは全く別の組織（例：シンクタンク等）が含まれたりする。現状では連絡会はこういう組織に対してクローズドになっていない。言論の自由を確保するために連絡会として主張しなければならない事態になった際、こうした動きを是としない団体が出てくる可能性もある。

コメント：イスタンブールでの総会に出席したのは峰崎前財務副大臣（現内閣副参与）だった。彼にはアプローチ可能。

(3) —2. 第 2 期予算について：

第 2 期活動予算案（別添資料 4）に基づいて、JACSES の田辺より説明があった。

発表の主なポイントは以下の通り。

- ・会員団体数は 20 団体と仮定し、申請中の助成金が取れた場合と取れなかった場合の 2 パターンで予算案を用意している。
- ・雑費等は前期よりも移動が増えるということを想定し、第 1 期より増額している。

質問：予算はもっとあった方がいいのか。これで充分なのか。

- 連絡会としてどんな活動をするのかによる。先ほど説明した計画案にある程度の活動ならばこの金額で可能と考えている。

(4) 第2期幹事の立候補について：

第2期幹事立候補者からそれぞれ所信表明があり、以下の8名が幹事として承認された。

| | |
|--------------------------|--------------------|
| 「環境・持続社会」研究センター (JACSES) | 理事 田辺 有輝 |
| (公財) プラン・ジャパン | 専務理事 鶴見 和雄 |
| (特活) ワールド・ビジョン・ジャパン | 常務理事・事務局長 片山信彦 |
| (特活) オックスファム・ジャパン | アドボカシー・マネージャー 山田太雲 |
| (特活) 日本国際ボランティアセンター | 代表理事 谷山博史 |
| (特活) 国際協力 NGO センター | 調査提言グループマネージャー 水澤恵 |
| 動く→動かす | 事務局長 稲場雅紀 |
| (特活) 日本リザルツ | 事務局長 白須紀子 |

(5) 事務局の選出について：

JANIC 水澤より JANIC と JACSES の共同事務局の提案があり、別添資料5の通り承認された。

(6) 報告事項：

1. IMF 世界総会に向けた各団体の活動の情報共有

➤ オックスファム・ジャパンより

・毎年の総会には、その年の重要テーマに沿ったチーム編成を組み、対応にあたっている。去年は金融取引税、G20における開発の言説の部分について、中心的にやっていた。

今年については日本政府も力を入れている国際保健、保健財政の分野について影響を及ぼしていきたい。イベントの開催時期（事前/ポリシーフォーラム中）は検討中。

単独でやるのか、どこかと組んでやるのかということについても未定。

日本政府が重視している DRR についても人道支援関連についてアンテナは貼っている。

➤ 動く→動かす

・ポスト MDGs のことをやっているのので、日本政府の動向を見ながら対応したい。TICAD の本会議が来年6月1日～3日にある。本件は世銀 IMF の年次総会で何かやるということではないが、事務レベルの準備会合が10月に、閣僚レベルの会合が3月にあるので、こちらの方面からもやるべきことが出てくるのではと考えている。今回の IMF 世銀総会では、各国の財務大臣や総裁が来るので、興味深い企画ができればよいと思う。

➤ WE21 ジャパン

・多くの NGO が総会が開かれることすら知らないのが現状。内部の共有をしていきたい。

➤ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

・インターナショナルで MDGs 4 を達成するキャンペーンをやっている。去年は保健人材、今年は保健

財政についてテーマを広げようと準備しているところ。日本政府との関係構築を始めている。今後オックスファムさん等とできることを検討していきたい。防災セミナー（DRR）について、防災計画には子どもの参画を提言していきたい。機会があれば何らかの活動をする可能性はある。

➤ **ワールド・ビジョン・ジャパン**

- ・政策的なアドボカシーは未定。ワシントンから担当者が来るので打ち合わせを予定している。WVJは政策的な議論をするというよりは、ポリシーフォーラムの中でイベントをやり、母子保健のキャンペーンを訴えていきたいと考えている。

➤ **JVC**

- ・アフガニスタン復興支援会合が7月に東京で開かれる。復興の国家開発戦略がいくつも出ているが、どれもお題目的である。東京会議に向けてアフガニスタンのNGOネットワークが集まってレビューを含む政策ペーパーを策定する。復興のイニシアチブを握る世銀の政策について、何が間違っているのか、今後どのような支援が必要なのか、現地のCSOの声が上がってくる。この声をいかに拾うかが東京会議の課題。

➤ **PARC**

- ・市民講座の開催などアウトリーチに力を入れている。以前は構造調整に力を入れていたが、市民の関心が下がりつつあるので、世銀IMFの関連問題について集会をやりたいと考えているが実施体制についてはまったく未定。

➤ **JACSES**

- ・現在世銀では環境社会政策を見直す議論をしている。関心を持つ約30団体（海外NGOを含む）が定期的に電話会議を行っており、JACSESも可能な限りこれに参加している。
会議では世銀の気候変動政策や人権、先住民族の権利等が議題として挙がっている。
JACSESは財務省NGO定期協議会の事務局をしている。協議会では世銀IMF関連の議題も上がるので、関心がある方がいればウェブを見ていただきたい。開催のお知らせ用メーリングリストもある。

➤ **JANIC**

- ・MDGsとポストMDGsの議論についてこの場を活用してフォローアップしていきたい。MDGsとポストMDGsについてはPolicy Forumでのセミナー共催についても検討したい。

➤ **日本リザルツ**

- ・国際保健分野で何かしらやりたい。国際保健財政については武見先生等と協力して組んでいくことも考えたい。外務省がMDGsフォローアップ会合のフォローアップを何かやりたいといっているの、そことどういう風にやっていくのか連絡会として考えたほうが良い。

▶ プラン・ジャパン

- ・2年前に世銀とユースエンパワメントに関する調査研究の委託を受けており、現在も継続中。今回の総会における3つの柱①DRR②Global Health③JOBの内、JOBの部分でユースを絡め、プラン・グローバルとしてポリシーフォーラムの中で何かできないかと検討を始めたところ。これをジャパンとしてサポートしていきたい。

▶ 横浜 NGO 連絡会

- ・横浜でも TICAD の動きがでてきている。JICA 横浜と横浜市が国際協力について契約を結んだ。これは TICAD も含んだもの。YNN は、横浜市や JICA 横浜等と協力して、横浜国際フェスタを開催している。フェスタのテーマとして、MDGs、TICAD を提案したい。このテーマでできる範囲で、広報、国際理解を推進していきたい。

▶ オルタモンド

- ・去年は FTT (金融取引税) について NGO が要求してがんばった。現在は日本政府が消費税一本やりなので、どう金融取引税なり国際連帯税を入れていくのかが課題。

2. 春季総会 (4月20日~22日) について:

- ・本会合の日程は4月20~22日、CSO ポリシーフォーラムは18~21日。
- ・CSO ポリシーフォーラムセッション数は40程度の予定。セッションを設けたい団体があれば3月上旬までに応募が必要。
- ・参加する団体には次回会合で報告してほしい。

(8) 今後のスケジュールについて:

幹事会 5月16日(水) 16:00~18:00 @JANIC

全体会 5月23日(水) 15:00~18:00 @場所は後日案内。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人は以下の通り署名する。

議長 谷山博史 (谷山博史) 

議事録署名人 鶴見和雄 (鶴見和雄) 

議事録署名人 山田太雲 (山田太雲) 